



日 本 童 謡 集

あやとりかけとり

竹 久 夢 二



ノーベル書房

昭和五十二年七月七日 発行

定価一三八〇円

■あやとりかけとり■

著 者 竹久夢二

発行人 山本一哉

発行所 ノーベル書房株式会社

東京都新宿区西大久保一の四三三 西北ビル

☎二〇〇—〇一六〇

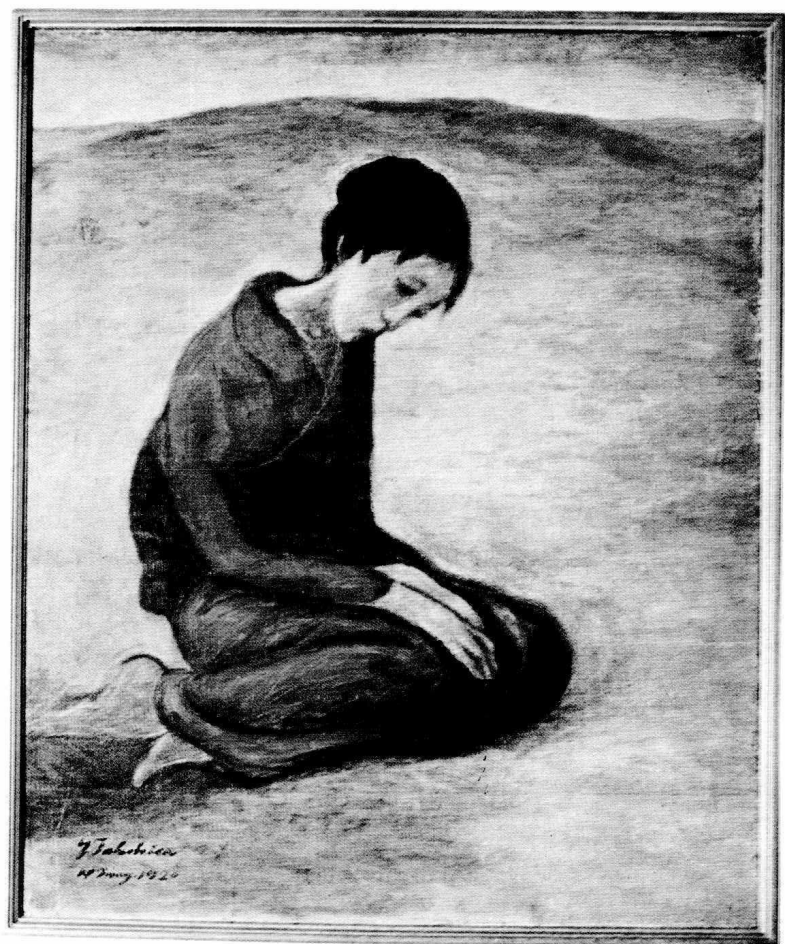
☎一六〇

印刷所
製本所

凸版印刷株式会社

0092—50030—6824









日 本 童 謡 集

あやとりかけとり

竹 久 夢 二



ノーベル書房

序

千九百十六年に出版した「ねむの木」に、その後古い本の中から、または諸方へ旅行した折々、口伝にて拾ひあつめた童謡幾篇かを書き添へ、千九百十九年に出した「歌時計」の姉妹篇のやうな形で、この本の出版を思立つた。

その年の秋、書肆の方へ原稿は送つたのだが、その頃の所定めぬ私の旅行は、落付いて何一つ出来ない心持にしてしまつたので、この本も、そのまゝにして、

だから挿絵も装画もしないで、今日になつてしまつた。

この頃、また思出したやうに、書肆へ催促して、挿絵も装画も、ことしの夏のはじめから画きだした。

「クリスマスまでにはこんどは出します。なんしろ童謡が流行つてきましたからね」書肆の番頭さんは、さう言つて上梓を急ぎだした。

この本は、今出しても遅すぎもしなければ、十年前に出てるても早すぎもしない。番頭さんは、童謡流行の秋だと言ふけれど、私にして見れば、もはや二十年

来、童謡風な絵も唄もかいてゐる。世間はどうかあらうと、英雄崇拜時代が過ぎて、所謂児童の世紀が来たらうとも、私は私のちよつとした好きな仕事をしたまうだ。それにしても、たまたま我国の古い童謡が忘れられやうとしてゐる今の時代の子供達に、この本を送ることが出来たのは喜ばしい。

今、我国に行はれてゐる小学唱歌が、所謂教訓的で、新しい童謡が、所謂民衆的であるかどうか知らないが、いつの世に誰が作つたとも、誰が歌ひ伝へたとも知れない我国のこれ等の童謡には、がつしりとした

線の太い純朴な、万葉の気韻をさへ持ち、飄逸なその落想には、太平な民族の微笑がある。

新しい童謡を、舶来金属の絃にたとへるなら、これ等の古い童謡には、笛・太鼓のおかしいなつかしさがあ

る。なんにせよ、私は、この可憐な唄をあつめたり、さしゑする仕事を楽しんできたことを書いておかう。

千九百二十二年十二月

著 者